

令和7年度第1回市川市地域ケア推進会議 会議録

1. 開催日時

令和7年7月15日（火） 14時00分～15時30分

2. 開催場所

市川市役所第1庁舎5階第4委員会（市川市八幡1-1-1）

3. 出席者

【委員】

山下会長、岩松委員、岸田委員、山本委員、鎌形委員、小沢委員、細野委員、松永委員、牧野委員、横山委員（欠席者4名）

【市川市高齢者サポートセンター】

各高齢者サポートセンター（生活支援コーディネーター含む）から計27名

【市川市】

地域包括支援課 高橋課長 ほか

4. 傍聴者

1人

5. 議事

- （1）令和6年度地域ケア推進会議における提案（振り返り）
- （2）第2層生活支援コーディネーターの活動報告
- （3）第2層生活支援コーディネーターが把握した地域課題の報告
- （4）グループワーク
- （5）その他

6. 配布資料

- ・ 令和7年度第1回市川市地域ケア推進会議 次第
- ・ 令和7年度第1回市川市地域ケア推進会議資料

7. 議事録

(午後 14 時 00 分開会)

発言者	発言内容
地域包括支援課長	本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。 本会議は、年齢を重ねても住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けていただくため、地域における課題を把握し、解決に向けて取り組んでいくことを目的としておりますが、行政だけで取り組むのではなく、地域で活動されている皆様のお力を借りることで、地域の実情を踏まえた効果的な施策に繋がるものと考えております。 令和6年度からは、15ヶ所の高齢者サポートセンター全てに、第2層の生活支援コーディネーターを配置しまして、それぞれの地域の支援の把握や課題への対応を進めており、最近では買い物困難地域で、地域住民のニーズを基にして、移動販売の開始につなげております。 今回の会議では、生活支援コーディネーターが把握した課題を基にして、時代の流れで欠かせなくなってきたデジタルツールや、日常生活に必要な買い物をテーマとしたグループワークを行いますので、ぜひ、委員の皆様のそれぞれのお立場から、積極的なご意見、ご提案をいただきますよう、よろしくお願いいたします。 また、本日の会議を通して、団体間の交流が深まり、新たなネットワークの構築に繋がることも期待しておりますので、ぜひこの機会をご活用いただきますと幸いです。
山下会長	ただいまより、令和7年度第1回市川市地域ケア推進会議を開催いたします。今回、新たに委員になられた市川市シルバー人材センター小沢様よりご挨拶をお願いします。
小沢委員	今年度から委員となりました、市川市シルバー人材センターの小沢でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
山下会長	年齢を重ねても暮らし続ける地域といったテーマで、特に地域の課題等について時代の流れを意識し、住民、事業者、団体関係者、そして活動者の方と、15ヶ所の生活支援コーディネーターの方々と、よく話し合いを行うことが重要ですので、グループごとに座っていただいております。 限られた時間ですので議事進行についてご協力をお願いいたします。 それでは、議題（1）令和6年度地域ケア推進会議における提案について事務局より説明をお願いします。
事務局	議題（1）令和6年度地域ケア推進会議における提案（振り返り）

事務局	(前年度の地域ケア推進会議の振り返りと抽出された課題について、配布資料に基づき説明)
山下会長	今ご説明いただきましたように、前回会議各団体のいろいろなご意見等を取りまとめて、この地域ケア推進会議が影響して、各団体が取り組み始めている、または取り組みを予定していることがあれば、ご報告を団体からいただきたいと思います。まず、市川市社会福祉協議会は何かやったりしていますか。
山本委員	市川市社会福祉協議会山本です。 市川市社会福祉協議会では特に認知症に特化したというわけではないが、前年度も地域包括支援課と共催で、「助け合いボランティア講座」をやらせていただきました。そのことも資料の「各団体における具体的な取り組み」に載せてもいいのかなと思いました。前年度は北と南の2ヶ所でやりましたが、今回は東西南北箇所数を増やし、地域別に細かくやっていこうというような取り組みを今、双方で話し合っているところでございます。
山下会長	情報提供とご意見ありがとうございました。 他はいらっしゃいますか。薬剤師会の牧野様いらっしゃいますか。
牧野委員	前回の会議から新しく始めたというのは、現状ないですけれども、認知症カフェの案内を薬局で積極的に掲示している部分もあるので、そういうところで協力をしているという現状です。
山下会長	全市的に一斉にスタートするキャンペーン的な動きは難しいことで、団体の中での実務もあるでしょうから、この会議で話し合ったことを持ち帰って、各団体でやりましょうというのなかなかそう簡単ではないと思います。有志の方が、関心を持ってくださって、そして、15ヶ所ある生活支援コーディネーターの方と繋がりながらこうした動きが取れてくると、お互いのやっていることなどが広がっていく可能性があるので、交流をしていくことも期待しております。 他、地域ケアというとやはり高齢者だけじゃなくて、市民全体のことが対象にはなるのですが、主に高齢分野のことを確実にやっていこうという点で高齢者は、病気と体と心といろいろな心配なことが起こってきて、自分で管理していきなきゃいけないという時代になるわけです。横山様、リハビリテーション協議会でお感じのことを教えていただけますか。
横山委員	リハビリテーション協議会では住民主体の通いの場で認知症予防、ロコ

横山委員	モ予防の話をさせていただいています。平成30年くらいから継続していますが、今年それをやる人たちも、うちの協議会の会員の人たちも含め大分増えてはきているので、今年度はその会員の人に向けて、どんな人がいたかとか、どんな大変さがあったのかを共有して、質の担保や、今後をいろいろ、行政の方と一緒に考えていきたいと考えています。
山下会長	リハビリテーションは高齢期に非常に重要なので、生活支援コーディネーターの方もぜひ横山さんと顔の見える関係で、いろいろと交流していただきたいと思います。 ありがとうございました。団体の皆様は今日生活支援コーディネーターの方とテーブルに着席いただいているので、テーブルを越えてですね、引き続きこうした高齢者ケアについての関心と取り組みを行うというご担当になっているというポジションをご了解いただきたいと思います。 それでは議題（２）第２層生活支援コーディネーターの活動報告に移ります。この地域ケア推進会議で一番重要としている基盤というのが、市内に15ヶ所ある生活支援コーディネーターの拠点、高齢者サポートセンターになります。第２層の生活支援コーディネーターの活動報告に移ります。事務局より説明をお願いします。
事務局	議題（２）第２層生活支援コーディネーターの活動報告 （生活支援コーディネーター、SCの役割について、配布資料に基づき説明）
山下会長	今までのお話を簡単にまとめると、この介護保険制度は平成12年から始まり市川市が保険者になって、市川市の高齢者サービスの提供等を進めてきました。高齢化はさらに進み、医療度の高い方がご高齢の姿に進み、そして虚弱の高齢の方もたくさんいらっしゃるという状況で、政策的に言うと国の介護保険財源が逼迫したことも背景にありつつ、一方でリハビリテーションや介護予防の強化をして、よりよい老後を過ごすことも重要だっ流れもあり、幾度の改正を経て、平成26年の改正で先ほど説明があった、それまでの介護保険サービスは全国一律の保険給付サービスだけだったのですが、ここから保険者を入れて市川市の機能をもっと自由度を作りながら、市町村のサービスや活動っていうのを作る基盤を整えようということが、法律で根拠づけられて市川市が行政として、そうした基盤を作りやすくなったっていうのが簡単な流れです。 ただ、1800ある自治体で様々に進めているので、いろんなやり方があって、その時の器にコーディネーターや協議体と言ったそうした流れがあって、今日はどっちかという一番大きい協議会というか、市川市全体のこ

山下会長	とを考える場合になりますが、普段は15の圏域でそれぞれ考えていく。ただ15の圏域の中では、解決できていることも当然あるのだけれども解決に至らないような、全市的な取り組みっていうのも重要で、年に2回ではありますが、こういう共有の場っていうのを作っていると、この流れの中で今、課題が活動の報告としていただきまして、活動したいって方へのサポートっていった報告の1と、活動報告の2は、虚弱、または体がかなり厳しい状況で、その公共機関の中にいろいろな処理をしなきゃいけないということが難しい状況にあった際に、会議って言ったものによってその課題を検討していくと、行政が何とかしますじゃなくて、まず自分達でどういうことができそうかといったことをよく、明らかにしていく中で、民生委員さんをご登場するようになりました。民生委員さんの仕事のすごいところって意見具申ができることですよね。行政に意見具申できるって役割があって、そういう機能も活用されながら、集積所ができていたという、そうした報告だったと思います。そして高齢のときによくある転倒ですね、そうしたものについて、取り組んでくださったというのが報告になっております。こうしたいろんな取り組みをたくさん積み上げていくというのが役割になりまして、今日もいくつかテーマがこの後提示されますので、皆さんとご協議をいただきたいと思っています。 では続きまして、議題（3）第2層生活支援コーディネーターが把握した地域課題の報告に進ませていただきます。
事務局	議題（3）第2層生活支援コーディネーターが把握した地域課題の報告 （SCの具体的な活動内容について、配布資料に基づき説明）
山下会長	先ほどの活動報告3が出てきた課題とその解決の道筋のヒントと、一部動き出したって言ったテーマですけど、今ここに羅列されているものは、解決し始めているものもあるけれども、もう少し皆さんと話し合ってみたって言ったものが出ているということで、各2層のコーディネーターの方が共有されていることなのだろうと思います。 それを一層の町田さんは代わりに話したといった内容でご理解いただきたいと思いますが、その中で、このあと2つに絞った意見というものを、今日この場で試してみてもどうかというご提案をいただいていますので、その話し合いをしていくことになります。 それではグループでの話し合いの進め方を事務局でご用意いただいていますのでお任せしたいと思います。
事務局	議題（4）グループワーク （事務局から進行について説明後、1～5グループで意見交換） 意見交換後、各グループから発表

5 グループ 発表者	(5 グループ、②の議題について発表) グループ5は、デジタルツールの利用促進に関して話し合いました。 まず、デジタルツールはどのような場面で使われているかどんな不便や苦労があるかについてです。 タクシー予約のアプリが使えなかったり、市役所の来庁予約もデジタル化されていて、病院のネット予約で不便がある方がいらっしゃいます。チケット75のネット申し込みをされた方がちゃんと申し込みができたか不安であるという声が聞かれました。ちょっとしたことで不安になったり、1つのことは操作ができるのですが、応用がきかないので不安があるという意見が出ました。あとはフィッシングメール、詐欺被害に不安を感じているというご意見が出ました。 解決するための取り組みとしては、1回ではなく、何回も教えてもらえる場があるといいなというのと、嫌がらないで教えてくれる人がいるといいなというご意見が出ました。これに関して、デジタルマスター、デジタルサポーターの方を募集して、ボランティアしてくれた方にICHICOポイントを与えてはどうかという話し合いが出ました。デジタル難民の方のフォローも必要ではないかという意見が出ました。
山下会長	ありがとうございました。では、次のグループはいかがでしょうか。
4 グループ 発表者	(4 グループ、②の議題について発表) こちらのグループではシルバー人材の小沢委員と薬剤師会の牧野委員を交えてお話をさせていただきました。 現状デジタルツールがどのような場面で使われているかというところでは、シルバー人材センターの方では、会員向けの専用サイトを流しているということで、見れる方が大体会員の半分ぐらいということでした。お仕事情報などを流しており、そちらを見て応募される方もいるということでした。 薬剤師会の牧野委員からは、スマホを使って処方箋の写真を送れるアプリなどを活用されている方もいらっしゃるということや、薬ができたときにメールでお伝えしたり、遠くの病院に行っている場合は、早めにアプリの写真等で処方箋を送っていただくと、薬の取り寄せも可能だというようなお話を伺わせていただきました。それ以外に活用の促進というところではないのかもしれませんが、コンビニやスーパーのレジ等も大分無人のものが増えてきて、タッチパネルの操作ができない高齢者が増えていたり、医療機関などでも無人の精算機が増えてきているので、そういうところもAI化、デジタル化というところで、使えない方も若干出てきているのではないかと、スマホだけではないのではないかとという話がありました。 解決するための取り組みとしては、実際やっている取り組みとして、大

4 グループ 発表者	学生がスマホ教室をやってくださったという話がありました。若い世代へ意識をつけていただいたり、多世代交流に繋がるようなスマホ教室の開催という意見が出ました。ただ、デジタル化に偏ってしまうと、有人のよさと言いますか見守りの目線のようなところがなくなっていくので、やはり両輪で進めていくのが大事なのではないかと、対話等を重ねていくことが大事ではないかというような話が出ております。
山下会長	ありがとうございました。 大体想定していた議論ができたのだと思います。 デジタルツールというのはこれからの生活を豊かにするQOL（クオリティーオブライフ）では重要で前提には立つんですが、デジタルデバインドっていう、いわゆる情報格差といった問題に、この地域ケア推進会議がどう取り組むかっていうテーマが今日出されたんだと思います。 デジタル化において有効でかつ入手しやすいものとしては情報の収集です。デジタルとのコミュニケーションによって迅速されたものが生まれるし、いわゆるコミュニケーションといったものがさらに、行政手続きや医療の手続きや、東京ディズニーランドの手続きだけではなくて進んでいくという、そうした時代になっています。一方で不慣れだったり操作が難しかったり、情報が多すぎて何を選べばいいかわからなくなったり、費用がかかったり、セキュリティが不安だったり、説明書読まないといけないのだったらやりたくないとか、不安感というところも少なからず、一般の高齢じゃない方にもあるはずです。そうしたのにどうするかっていうとやっぱりこの地域ケア推進会議って人間を見るのが大事で、人間と環境を見るところという両方やりながら、その真ん中の作り方が先ほどの解決の仕組みだったと思います。 それが2層の圏域でできることと、また1層でやっていくことと、また状況やレベルの内容が違ってくるので、これから温めていくことになるかと思います。高齢者の問題を高齢者だけで解決しないという話だと、大学生だとか、スマホ持ったら自然に動いちゃう子どもたちとか、そういう人から言ってもらった方がよいかもしれません。いろんなことをコーディネーターの方が手を変え品を変えやっていかれる際に、今日この地域ケア推進会議の各団体の方も関わることが良いかと思います。 この後食事の話にも繋がりますが、私たちは環境というものを見なきゃいけないで、環境といったものがこれからデジタル環境になっていくことと、商業の環境も変わっていったって淘汰されて、集約化されていきます。そこで、次の食事の課題と取り組みの議論が今進んでいるので、この2つの問題って違うようで少し関連性があることも気づかれたかと思います。 それでは食事のグループお願いします。

2 グループ 発表者	(2 グループ。①の議題について発表) 買い物の不便や苦勞を感じる方への支援についてです。今回、自治会連合会の岸田委員と高齢者サポートセンターの職員というグループで、お話をさせていただきました。 不便を感じる苦勞を感じる原因買い物難民の地域でなくても、1週間分の献立を考えられなくなったり、スーパーへ行けなくなるという、今までと同じ生活ができなくなった場合に、不便や苦勞を感じることもあるのではないかという話が出ました。 解決するための取り組みとして商店街の個人店がつぶれてしまっているという状況があったり、自身で決められたスーパーに行きたい方がいたりっていうところで、移動販売が新しく来たところで、知らなかった、利用できないというような方もいます。もしくは買ったところで自宅まで持ち帰れない方もいるので、地域でどんな取り組みが必要かというところが、とても難しかったです。できれば発想の転換をしていく方がいいんじゃないかなっていう話も出たのですけれども、今社協さんでも行っている「お互いさま事業」などで、御用聞きみたいな窓口があった方がいいのではというお話をさせていただきました。
3 グループ 発表者	(3 グループ。①の議題について発表) 3グループでは、民生委員児童委員協議会の松永委員と、あと福祉公社の細野委員に加わっていただいて、お話をさせていただいております。 買い物に関してすけれども、具体的場面やその原因というところになりますが、エリアが北部と西部の構成になっているのですが、地形上お買い物に行くのが難しいというようなご意見があって、具体的にいろいろ移動手段の部分ですとか、あとはやはり独居であるなしにかかわらず、ちょっとご家族と一緒に外出する機会が少ない、なんていうお話があったり、あとは生協さん等を利用している方もいらっしゃるのだけれども、ちょっとコストがかかったりとか、やはり直接見て選びたいというようなご意見があって、そういう意味合いで感じるところが、不便や苦勞を感じるというところの内容になりました。 解決するための取り組みとしては、先ほどもありましたけれども、隣近所の方とやはり親しくいられることでご近所の方に頼れる関係づくりが築けるといいし、その中で、やはり自治会や町会と繋がっておくのが必要であろうというようにお話が出ております。やはり地域をまわらせていただいている中で、移動販売等を行っているエリアもあるのですけれども、やはりその周知というところが今ひとつというところもあるので、導入した効果というものが、継続して行う必要があるのかというところ。やはり知っていて来ていただければいいというところのサポートが必要であろうというところになりました。

3グループ 発表者	最終的にはどういうものがあるといいかというところの部分では、取り組みの中の1つとして、実際に見て選ぶっていうところも含めてになりますが、一緒に連れていっていただいて、それで買い物ができるようなサービスがあると理想だね、なんていうお話で終わっております。
1グループ 発表者	(1グループ。①の議題について発表) 今回は高齢者クラブ連合会の岩松委員と社会福祉協議会の山本委員と一緒にになりまして、お話をさせていただきました。 まず不便や苦勞を感じるのはどんな時かというところでは、昔と違いまして、近所つき合いが変わってきているというところで、孤独、孤立している人が多くなって、人との関わりがなくなっている。そういったところでの買い物の不便を感じている方も増えてきたという意見も出ました。 また、移動販売を開始したものの、個々の悩み事がやはりそこでも判明しまして、移動販売があっても場所がやっぱり遠かったとか、時間が合わないというような問題点も出てきております。あと、今までは元気だったけども、体の不自由さが出てきて、今まで行けていたところでの買い物が行けなくなったというような状態になったことも、話し合いがありました。 そういった解決をするために地域でどんなことがあるか、どうすればいいかという話し合いでは、まず解決するためには、原因を知ることが必要ということです。人によって、個々の悩みが違うという意見が出ました。その人に合った対応策をやっていかないと、やはり解決にはならないのではないかと。またその中で、買い物に関しましては、近所の助けというのは重要ではないかという意見が出ました。また代わりに近所の若い方がネット注文をお手伝いしているという意見もいただきました。ネットの操作方を教えていらっしゃる方もいるそうです。あとは、そういった地域課題が出たときに、地域会議を開催しています。地域会議を開催、参加した皆さんで知恵を出し合うことで、その地域課題が解決できたという意見もあります。どういうことが最終的に大事なのかというと、制度とかボランティア、有償サービスなど、いろいろなサービスをその人によって組み合わせることが大事でありまして、最終的に大事なことは、本人ができることは本人にやってもらう、できないところを支援していくというような意見でまとまりました。
山下会長	はいどうもありがとうございました。 もう少しお話されたこともあったかもしれませんが、まとめに入っていきます。 買い物が今日のテーマでしたけれども、買い物に不便、苦勞を感じる方っていうこの人の見方をもう1回見直していくという、やっぱり人間と環

山下会長	境を見てく感じが、今日皆さんと共有したいことで、買い物に不便苦勞感じている人はそれなりの生活の工夫をされているかどうか、なんですよ。されているけれどもできなくなってしまったっていうことを急に、それができなくなった状態が起こっていると。虚弱だったり、転んじったり医療が必要になったり、運転免許証返さなきゃいけなくなっちゃったりとか様々な環境の要因があったりして、それを全部ひっくるめて皆さんでね、いろいろと話したことをこの地域ケア推進会議で解決策つくれるかと、そんな簡単につくれるものじゃないと。それは議論されてなかったと思います。 一方で商業単位が大きくなっていき、それでないと成り立たないっていう、いわゆる買い物業者っていうのですかね、お店の動きもある中で、それをどうするかっていうのを私たちもまた介入しにくいことですが、でもそこで買い物をしていくって言ったことができる人とできない人がいるってことですよね。さっきの孤立、孤独って話がありましたけど、そういう方は社会的に孤立している状況になった人達って感じでしょうか。そうするとヤングケアラーの方も買い物にたくさん行っているわけですよ。実はそこは買い物には行けるけど、そのためのお金がないっていう経済的な背景があったりとか、勉強しなきゃいけない、遊びたいけどその時間を買ひ物の時間に割いているっていう、そうした子供の姿も見えてきたりして、単に物理的に近くに行ける商業がないとか、足が悪くなったりしてその買い物に行けないっていう着眼点だけでこの議論していいのかっていうのが、やっぱりこの買い物不便の問題を考えると一番市川市で大事なこともかもしれないんです。つまり目の前の買い物不便を解消するのは、それはケアプランとか、その個別の支援の中で、何とかそれをやっていくものになるけど、1グループがおっしゃったように、そうじゃなくて、孤独、孤立の問題として、この課題をどう整えていくかっていうと15分で解決するなんてありえないことで、また今日この会議で1つテーマをいただいたんのだろーと思います。 そうすると行政と、福祉サービス事業を展開する人たちと地域住民と、そして地域住民の中で活動してくださっている方々、民生委員さんとかボランティア活動とか、有償サポートとか、そうしたそれぞれの方々と、地域ケア推進会議の構成がどのように、展開していくかっていうのは、この会議でやるっていうか、日常的な交流コミュニケーションの場でこれを展開していくので、この会議は年に2回しかないですから、第1層のコーディネーターの方はそこを縦横無尽に動き回る役割を果たすし、第2層のコーディネーターの方は今日このテーマをもって、一人一人と地域を見て、その圏域の地域を見ながら、この課題にどういうふうに関わっていくかだと思います。1つだけ出てこなかったのがグループで聞こえてきましたけど、災害時のデジタルの問題っていうのと、災害時の買い物というか、そ
------	---

山下会長	の方にとって起こった大きな出来事で何もできなくなってしまった状態のときのデジタルの問題と、何もできなくなったときの介護の問題はまた全然違いますよね。その時に大事なものは1グループが少しおっしゃっていた、その時に社会的に孤立しているかどうかです。してなければネットがかけられているので、していたらそこはネットがかからない人達ですから、それを誰がどのようにサポートするのか、つまり地域ケアの基盤をもう一度こういうテーマを通して、作り直した方がいいかなっていうのが見えてきたところではないでしょうか。 大きなまとめ方になってしまいましたけど、課題解決っていうのはそう簡単ではないってことを認識した上で、慣らしをちょっと今日してみましたけど、実際に市川市の大きな圏域での政策と、具体的なサービスや市民の活動、そして第2層のコーディネーターさんがコーディネートできる範囲での問題の解決や地域づくり、少しこうしたことも、もうちょっと言語化しながら次回またお会いしたいなと思ったところです。 具体的にできていることにちょっと足していくぐらいのやり方でよくて、ゼロから作ろうって発想にはならない方がいいかもしれないです。今あるところ、つまり市民一人一人の生活の工夫を見ていくっていうのがすごく大事だろうと思います。 これまでのご意見、ご提案ありがとうございました。
事務局	改めまして、ありがとうございました。 孤立の問題、福祉サービス、福祉活動と、活動している方、住民、そういった方、また災害の視点というのも、幅広く先生にまとめていただきまして、社会的孤立をどうするかっていうところが一番要というところでは、大事であります。あと先生から、できていることに少しずつ出していこうというほっとするようなアドバイスをいただきまして、大変有意義な会議ではなかったかなというふうに思います。 これをもちまして閉会したいと思います。 本日はどうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

(15 時 30 分閉会)